

IV-262

渋滞情報に対するドライバーの反応

大阪大学工学部 正会員 田中聖人

大阪工業大学

上野精順

秋田県

小野 潔

1. はじめに

自動車利用の増大により、都市域では交通渋滞が日常化したものとなっており、快適性・安全性の低下が大きな問題となっている。その対策の一つとして、道路交通情報の提供整備が図られつつあるが、問題解決への寄与度は解明されていない。ここでは、交通渋滞情報を対象として、情報提供の安全面への影響について考察する。

2. 方法

ドライバーの場合、渋滞情報の多くを経路途中の運転中において得ることが多く、その結果、経路を変更するか今の経路を走り続けるかの選択となるが、いずれにしても、渋滞情報を得た以後の運転心理・行動には変化が生じると考えられる。その変化が安全側へ作用するのか危険側へ作用するのかを明らかにする方法として次の3つが考えられる。

①情報提供の有無による事故率の比較

②情報提供の有無による実際の走行行動の比較

③情報取得後の心理・行動変化の意識評価

今回は③の方法によることとし、意識調査の対象者として、仕事で車をよく運転し、渋滞情報に接する機会も多く、必要度が高い運送ドライバー、配送配達ドライバーとした。これらのドライバー 422人に対して①渋滞情報取得時の心理②変更ルートでの運転心理・行動③渋滞到着までの運転心理・行動についてのアンケートによる意識調査を実施した。

3. 渋滞情報取得後の心理と行動

3-1 渋滞情報を得たときの気持ち

表-1は渋滞情報を得たときのドライバーの気持ちを示したものである。都市域では道路網の整備が進みルート選択の幅も広がっているが、57%の人がすぐに別ルートのことを考えており、ルート変更の可能性の高さがうかがえる。また、交通事故の人的要因である「急ぎ」「あせり」の気持ちがドライバーに誘発されるというマイナス面も存在する。

3-2 ルート変更後の心理と行動

ルートを変更した後のドライバーの気持ちを図-1に示す。「急ぎ」の気持ちを持つドライバーが43%と最も多い。途中でルートを変えることは運転をかりたてたものにする作用があると言える。そのことの行動面への反映を示したものが図-2である。反映される割合のもっとも高いのは「速度を上げる」行為であり、続いて「車線変更」「車間距離を短くすること」「追い越し」となっている。このような心理変化、行動変化の生じる割合は高く、ルート変更後の走りは危険性の増幅されたものとなる可能性が高いといえる。

表-1 渋滞情報を得た瞬間の気持ち

とっさに迂回路を考える	56.9%
いつものことでまたかと思う	59.7%
もっと早くに出てくればよかったと思う	21.8%
急ぐ気持ちが起こる	22.7%
その他	4.7%

構成比%(回答数)

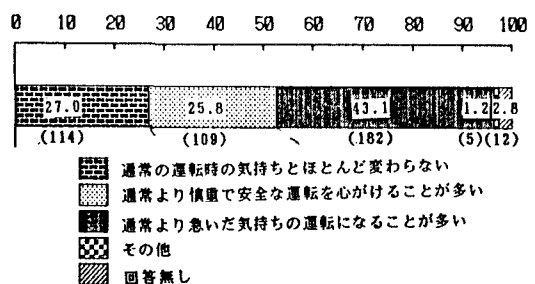


図-1 ルート変更後の気持ち



図-2 ルート変更後の行動

3-3 ルート変更しないときの心理と行動

ここで取り扱うのは、渋滞情報を得てから渋滞列に着くまでの区間における心理と行動である。

図-3は、渋滞情報の内容によって運転ぶりが変化するかを示したものである。情報内容間の相違はほとんど見られず、いずれの場合も6割近いドライバーが運転ぶりを変えずとしている。図-4は渋滞長の情報を得た後の気持ちの変化を示したものである。渋滞が短い情報の場合には、「あせり」「いらいら」の発生は極めて少なく、逆に「安心」をいだかせるが、長い情報を得ると「あせり」「いらいら」の気持ちの発生が高まっている。図-5は渋滞長の情報を得た後の行動変化を示したものである。行動が危険側に変化する割合に渋滞長の長短による大きな相違は見られないが短い情報のときに「スピード」「追い越し」において危険側となる割合がやや高くなる。行動の危険側への変化をルートを変えた場合と比較すると、危険側への変化の割合は小さくなっている。しかし、「多くなる」の選択肢への反応割合はルートを変えない場合の方が高くなっており、より「あせり」の強い運転行動が惹起されるといえる。

4. おわりに

渋滞情報の提供は、ドライバーに臨機応変なルート変更の可能性を与えるというプラスの効果がある反面、ドライバーを「急ぎ」「あせり」の運転心理にし、運転行動を危険側に変容させるマイナス面の存在することを示した。このことは現在の渋滞情報提供の不十分さ、不適切さを反映したものとも考えられる。ドライバーを納得させる渋滞情報提供とはいかなるものかが探求されなければならない。

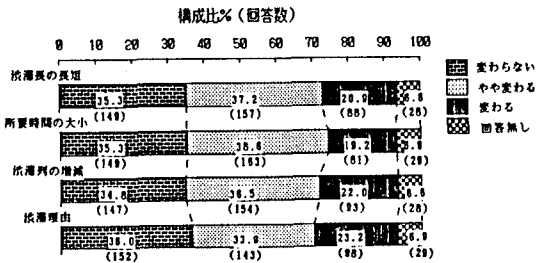


図-3 渋滞情報を得た後の運転ぶり

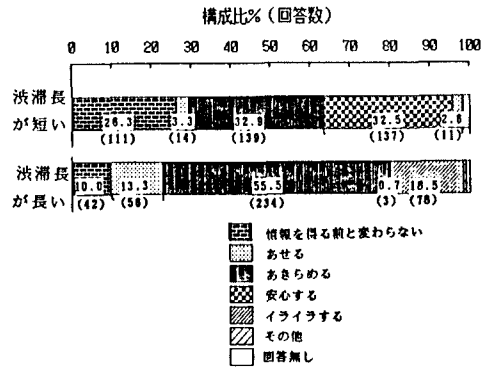


図-4 渋滞長情報を得た後の気持ち

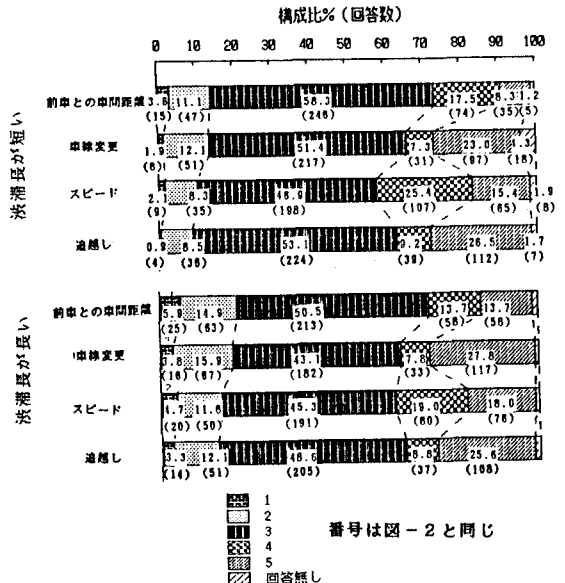


図-5 渋滞長情報を得た後の行動